

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***旧図書館から出てきた16mmフィルムのデータ化ができた**

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室では、東京天文台（国立天文台の前身）の旧図書館に保管されていた写真乾板類を整理し、データ化の作業を行っている。保管されていた乾板のうち、天体写真についてはS君が担当しており、筆者はその他の雑乾板の整理、データ化を行って来た。その他の雑乾板が入った段ボール箱の一つから16mmフィルムが9本出てきた。2本はリールに入っており（写真1）、7本はスプールもなく裸の状態であり、状態は非常に悪いと思われた（写真2）が、それらのデータ化も行った。今回はフィルムのデータ化の報告である。

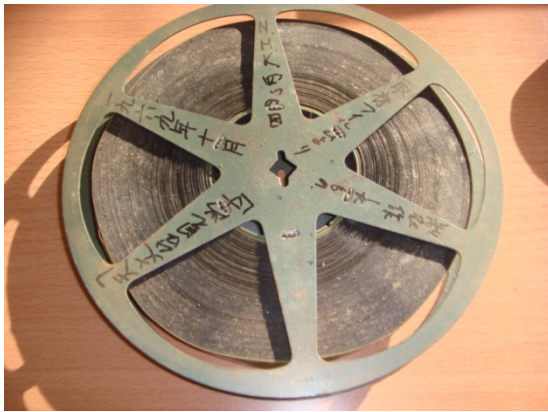


写真1 リールに入った2本



写真2 裸の7本のフィルム

何が写っているかまったくわからないまま、このフィルムのデータ化を業者に依頼した。時間がかかったが、2月28日にデータ化されたハイビジョンテープ1本とDVD1枚が納品された（写真3）。



写真3 きれいに清掃されたフィルムと納入されたデータ化されたDVDなど
さっそくDVDの映像を見たところ、元東京天文台測光部の田鍋浩義氏の若いころ、氏が小学生を相手に65cm望遠鏡の説明をしているところ、20cm赤道儀望遠鏡で太陽物理部の田中幸明氏が太陽の黒点をスケッチしている様子を小学生に見せている光景、太陽塔望遠鏡の観測の様子を見せている光景、堂平観測所の光景や91cm望遠鏡の主焦点カメラ、光電測光装置などを撮影したもの、天体の日周運動などの早送りの映像などが撮影されていた。今までにも古いフィルムをDVD化したことはあったが、これまでにないいい状態で複製することが出来た。

写真4は、田鍋浩義氏が説明している一場面である。



写真3 小学生に説明する田鍋浩義氏

写真4は、太陽塔望遠鏡を見学する一場面で、シーロスタットの鏡に映った小学生である。



写真4 塔望遠鏡のシーロスタットに写った小学生

このように、画像の状態は非常に良いとまでは言えないが、十分に鑑賞に堪えるものである。9本で約30分の映像になっている。なかなか見応えのある映画である。残念なのは無声映画であることである。業者によると、編集する前の画像は35mmフィルムだったのではないかということである。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp